【特集　林芙美子と太宰治】

高円寺図書館

2018年6月号

新宿区・林芙美子旧居

杉並区立高円寺図書館

〒１６６－０００３

東京都杉並区高円寺南２－３６－２５

電話　０３－３３１６－２４２１

《最近入った本》

書名、編著者、出版者等	内　　容
『図書館サービス概論』(二村健シリーズ監修、学文社)	多様な図書館サービスについて、基本精神をふまえつつ、基盤となる制度や仕組みを具体的に解説。
『ホームズと推理小説の時代』(中尾真理、筑摩書房)	シャーロック・ホームズが全世界を魅了したのはなぜか？ホームズを起点に、欧米・日本の推理小説の誕生と発展の様子を辿る。
『飯舘を掘る 天明の飢饉と福島原発』(佐藤昌明、現代書館)	飯舘村出身の記者が被災地の取材、及び江戸時代・相馬藩の復興政策について独自の歴史資料調査を行い、現代に通用する施策を抽出するノンフィクション。
『少子高齢化時代の女生徒と家族』(津谷典子他、慶応義塾大学出版会)	「結婚と家族に関する国際比較調査」データを基に、変わりゆく女性の生き方から日本社会の変容と少子化の深因を描き出す。
『優生保護法が犯した罪 子どもをもつことを奪われた人々の証言』(優生手術に対する謝罪を求める会、現代書館)	優生保護法下、不妊・断種手術を受けさせられた証言と国内外の優生政策、外国の補償の取組を検証。新たな被害証言や日弁連「意見書」などを加えた増補新装版。
『学校福祉とは何か』(鈴木庸康裕編著、ミネルヴァ書房)	学校のソーシャルワークが子どもたちにどんな力を育てるのか。活用や技法ではなく、学校教育領域から実践方法論を提案。

『アーレントのマルクス 労働と全体主義』(百木漠、人文書院)	「誤読」という批判があるアーレントのマルクス研究について、「労働と全体主義」という視点から、アーレント思想の新たな魅力とその現代的意義を引き出す
『13歳からの教育勅語 国民に何をもたらしたのか』(岩本努、かもがわ出版)	教育勅語が近代日本人の生き方に大きな影響を与えた「事実」を、マンガや写真を交えながら、具体的な事例を通して紹介。
『お稲荷さんの正体 稲荷信仰と日本人』(井上満郎編著、洋泉社)	農業神であった神が、なぜ商売繁盛などの守護神になったのか？「稲荷神」のルーツと信仰発展の謎に迫る。
『福島第一廃炉の記録』(西澤丞、みすず書房)	現役世代だけでは完了できない課題ゆえに、記録を残すために制作された福島第一原子力発電所の廃炉作業の写真集。
『気象で見直す日本史の合戦』(松嶋憲昭、洋泉社)	当時の気象データと歴史資料を合わせることで、関ケ原などの合戦の意外な真相を解き明かす。
『「関ケ原」を読む 戦国武将の手紙』(外岡慎一郎、同成社)	関ケ原合戦に至るまでの陣営間を飛び交った武将たちの手紙を紹介。人の動き、思惑や計略、迷いや決断など、深層に迫る。
『難訳・和英「語感」辞典』(松本道弘、さくら舎)	「ああ言えばこういう」・「縁起をかつぐ」など、日本語の微妙なニュアンスをどう英語にするか、著者独自の表現・文例で解説。

『大丈夫、働けます』 (成澤俊輔、ポプラ社)	就労困難者を支援し、「人と会社が幸せになる仕事の創り方」を目指す著者らの仕事を紹介。
『サンプリングって何だろう 統計を使って全体を知る方法』 (廣瀬雅代他、岩波書店)	統計学の基本であるデータの集め方、即ちサンプリングの考え方やしくみを社会調査や生態学の例を使ってわかりやすく解説。
『古写真で見る幕末維新と徳川一族』 (永井博、KADOKAWA)	最後の将軍・慶喜や、徳川・松平家の当主や姫君たちの生涯を古写真とともにたどる。

＜6月の行事・展示＞　※展示されている本は借りられます。

◎特別行事・展示

名称・テーマ等	場所・日程等	内　容
パネル展示 「林芙美子と太宰治」	7月1日(日)まで。 階段踊り場	新宿の林芙美子記念館と、三鷹の太宰治の足跡を写真で紹介。
あかちゃんといっしょに楽しむ 「わらべ歌の会」 電話または高円寺図書館窓口にて受付中。	8日(金) 午前11～11時40分 1階講座室 対象：2歳程度までのお子さんと保護者。 定員：20組(申込順)	わらべうたを歌ったり、歌いながら、体を動かしましょう。
講演会 「林芙美子と太宰治」 電話または高円寺図書館窓口にて受付。	17日(日) 午後2時～4時 1階講座室 定員：30名(申込順)	杉並ゆかりの作家・二人の交友などについて、新宿歴史博物館学芸員の佐藤泉氏に講話して頂きます。

人形劇	30日(土) 午後2時～2時40分 1階講座室 定員：30名(先着順)	茜舎により「ねずみのすもう」・「3匹のやぎのがらがらどん」を上演します。
こどもの本のリサイクル (一人　10冊まで)	30日(土)まで 2階児童コーナー入口にて。	こどもの本のリサイクルをします。気に入った本があったらお持ちください。お持ちになるときは、コーナーに設置された受領書にご記入ください。

◎その他の展示

名称・テーマ等	場所・日程等	内　容
杉並の文士たち	2階カウンター前	かつて杉並に居住していた林芙美子や太宰治の著作や関連本を展示しています。
NO MUSIC NO LIFE 音楽のない人生なんて	2階YAコーナー	人間が生きるための不可欠条件って「衣食住」なんだけど・・・やっぱ音楽がない生活は考えられない！！
あめとかさ	2階児童絵本コーナー	6月はあめのきせつですね。 あめとかさの本をてんじします。
育父部(いくぢぶ)おすすめのえほん	2階児童コーナー入口	子どもに読み聞かせをしているグループのお父さんが、おすすめする絵本を展示しています。

【特集　林芙美子と太宰治】

○林　芙美子

［新宿歴史博物館提供］

本名フミコ。1903 年生。

幼児より各地を転々と行商をして、流れ歩く生活を送った。1922 年　上京し、女給などをしながら詩や童話の執筆を続ける。

「女人芸術」に 1928 年から連載した『放浪記』が好評を得て、改造社から上梓されるや一躍ベストセラーとなった。

以後、『風琴と魚の町』や『清貧の書』の独自な主観的詩的抒情的文体と相俟って、名声が定まる。1935 年の『牡蠣』あたりを境にして、客観的な写実作品による社会性をもった斬新なリアリズム作家としての力量を発揮し始める。戦争中は大陸や南方にペン部隊として従軍し、時局作家として活躍する一面も見せた。戦後も精力的な創作活動を展開させて『うず潮』、『晩菊』等を著す。

しかし、『浮雲』の完成からわずか三か月後の 1951 年 6 月 28 日、心臓麻痺で急逝。47 歳。『めし』をはじめとする5作品が絶筆となった。

芙美子は、1927 年 1 月～1930 年 5 月の間、杉並に居住した。

1926 年 12 月に手塚緑敏氏と結婚し、最初は現在の梅里辺りに間借りした。その後、堀ノ内・妙法寺近くの貸家に転居。この時期の芙美子は売るあてもない原稿を乱作しては、丸ノ内の新聞社に持ち込んでいた。時には、自分の帰宅よりも早く原稿が速達で送り返されたこともあったという。

1928 年 10 月「女人芸術」に発表した「秋が来たんだ一放浪記」が好評を得て、1930 年まで断続連載となり、同年 5 月に新宿・上落合に移った。『放浪記』がベストセラーとなったのは同年 7 月のことである。

杉並は伴侶を得て、精神的な安定を得た新婚生活を送った場所であるだけでなく、『放浪記』のモチーフとなった時代が終わり、作品に昇華させ、作家になりたいという希望が現実になっていた幸福な時代であったといえる。

【林芙美子著作】

○『ピッサンリ』　思潮社
○『浮雲』　新潮社
○『うず潮・盲目の詩』　講談社
○『戦線』　中央公論新社
○『晩菊・水仙・白鷺』　講談社
○『放浪記』　岩波書店
○『林芙美子　巴里の恋』　中央公論新社
○『下駄で歩いた巴里』　岩波書店
○『貧乏こんちくしょう』　廣済堂出版
○『めし』　新潮社
○『北岸部隊』　中央公論新社
○『絵本猿飛佐助』　講談社
○『林芙美子　ちくま日本文学全集 45』　筑摩書房
○『林芙美子全集』全 16 巻　文泉堂出版

【林芙美子関連資料】

○『飢え』　群ようこ　角川書店
○『女流　林芙美子と有吉佐和子』　関川夏央　集英社
○『人間・林芙美子』　竹本千万吉　筑摩書房
○『林芙美子・ゆきゆきて「放浪記」』　清水英子　新人物往来社
○『ナニカアル』　桐野夏生　新潮社
○『女三人のシベリア鉄道』　森まゆみ　集英社
○『林芙美子　女のひとり旅』　新潮社
○『林芙美子の昭和』　川本三郎　新書館
○『太鼓たたいて笛ふいて』　井上ひさし　新潮社
○『華やかな孤独　作家・林芙美子』　尾形明子　藤原書店
○『石の花　林芙美子の真実』　太田治子　筑摩書房
○『林芙美子　新潮日本文学アルバム 34』　新潮社

○太宰　治

［太宰の墓　三鷹市禅林寺］

本名津島修治。1909年6月19日、青森県生。

左翼文学に近づいたが、心中事件をおこし、警察署に出頭したことで左翼活動との縁が切れ、本格的に創作に取り組み、『魚服記』・『思ひ出』で注目される。

1935年「日本浪漫派」に参加して、『ダス・ゲマイネ』他を発表し、『逆行』が芥川賞候補となる。1936年の『晩年』では、時代の苦悩に共鳴する読者を持った。薬物中毒を癒した後、『二十世紀旗手』などを発表し、『女生徒』で北村透谷賞受賞。1940年『東京八景』を書いた後、『駈込み訴へ』・『走れメロス』等、古典などに題材を得た作品を多く発表。

戦争中も、『津軽』・『新釈諸国噺』・『お伽草紙』他,健筆をふるった。

戦後、無頼派を自称。『斜陽』・『人間失格』等を発表し、混乱の世相に寵児となる。『斜陽』のモデル太田静子に治子が生まれるなど、生活に重荷が重なり、1948年6月13日山崎富栄と玉川上水に入水自殺。39歳。

いかなる既成秩序にも安住しまいとする自虐の姿勢は、戦中戦後の青春の一典型として、田中英光はじめ多くの後続に影響を与えた。

太宰は、1933～35年と1936～38年の間、杉並に居住した。理由は、杉並在住の作家・井伏鱒二の近くにいたいという気持ちがあったとされる。

最初に天沼に居住。最初の妻・小山初代との家庭が波瀾の少ない平穏な頃で、徐々に作品が注目されるようになっていた。だが、病気で薬物中毒に苦しむようになり、船橋に転居し、杉並での生活を終えた。

1936年、荻窪で生活をはじめ、数日で天沼の碧雲荘に移る。翌年、初代と心中自殺未遂を図り、離別。近くの下宿屋・鎌瀧に移る。ここでの生活は荒んでいたようであるが、井伏から縁談をもたらされ、1938年山梨県御坂峠の天下茶屋に旅立ち、杉並での生活に終止符をうった。

【太宰治著作】

○『晩年』　新潮社　／　○『お伽草紙』　新潮社
○『奇想と微笑』　光文社　／　○『斜陽』　新潮社
○『人間失格』　新潮社　／　○『女生徒』　角川書店
○『ろまん灯籠』　新潮社　／　○『ヴィヨンの妻』　新潮社
○『地図』　新潮社　／　○『津軽』　新潮社
○『グッド・バイ』　新潮社　／　○『新ハムレット』　新潮社
○『パンドラの匣』　新潮社　／　○『愛と苦悩の手紙』　角川書店
○『富岳百景・走れメロス』　岩波書店
○『太宰治全集』全13巻　筑摩書房

【太宰治関連資料】

○『明るい方へ　父・太宰治と母・太田静子』　太田治子　朝日新聞出版
○『回想の太宰治』　津島美知子　講談社
○『太宰と井伏』　加藤典洋　講談社
○『漱石・芥川・太宰』　佐藤泰正　朝文社
○『太宰治』　井伏鱒二　筑摩書房
○『太宰治』　長部日出雄他　小学館
○『太宰治全作品研究事典』　神谷忠孝他　勉誠社
○『太宰治に出会った日』　山内祥史他　ゆまに書房
○『太宰治の文学』　佐古純一郎　朝文社
○『太宰治　文学と死』　山内祥史　洋々社
○『太宰治論』　饗庭孝男　小沢書店
○『恋の蛍　山崎富栄と太宰治』　松本侑子　光文社
○『純血無頼派の生きた時代』　青山光二　双葉社

【参照】

◎『日本近代文学大事典』　講談社　1984年
◎『日本現代文学大事典　人名・事項篇』　明治書院　1994年、他。

最近の新聞記事から

４～５月の朝日新聞夕刊に、詩人・文化勲章受章者の「大岡信をたどって」が連載され、妻で劇作家・深瀬サキと一緒に暮らし始めた頃、荻窪に住んでいたとの記載がありました。

大岡信(1931～2017)は歌人・大岡博の長男として静岡県に生まれ、谷川俊太郎や茨木のり子らの詩誌「櫂」に加わり、第一詩集『記憶と現在』で注目されます。主な詩集に『春　少女に』・『故郷の水へのメッセージ』・『地上楽園の午後』等。このほか評論では『紀貫之』他を著し、詩を共同制作する「連詩」の創始者としても活躍。朝日新聞一面のコラム「折々のうた」を 1979 年から足かけ 29 年間にわたって連載し、詩歌の魅力を最も普及させた第一人者といえるでしょう。

高円寺図書館では下記の資料を所蔵していますので、関心ある方はぜひご利用ください。

【大岡信作品】

・『大岡信　(日本の詩)』　ほるぷ出版／・『丘のうなじ』　童話屋
・『大岡信詩集　自選』　岩波書店／・『ぐびじん草』　世界文化社
・『永訣かくのごとくに候』　弘文堂　／　・『草府にて』　思潮社
・『折々のうた三六五日』　岩波書店　／　・『現代詩人論』　講談社
・『詩をよむ鍵』　講談社　／　・『詩の思想』　花神社
・『詩の誕生』　思潮社　／　・『あなたに語る日本文学史』　新書館
・『しのび草』　世界文化社　／　・『歌仙の愉しみ』　岩波書店
・『古典のこころ』　ゆまにて出版／・『五音と七音の詩学』　福武書店
・『拝啓漱石先生』　世界文化社　／　・『みち草』　世界文化社
・『大岡信詩集　詩とはなにか』　青土社　／　・『旅みやげ』　集英社
・『日本の詩歌』　岩波書店　／　・『詩人・菅原道真』　岩波書店
・『詩と世界の間で』　思潮社　／　・『批評の生理』　思潮社
・『日本語の豊かな使い手になるために』　太郎次郎社
・『ぬばたまの夜、天の掃除器せまってくる』　岩波書店

【表紙の写真】

林芙美子が 1941 (昭和 16) 年 8 月から亡くなるまで暮らした家で、現在は新宿区立林芙美子記念館となっています。

家を建てるにあたり、参考書を 200 冊あまり読破し、大工と一緒に京都の寺や茶室を見学し、設計図を自ら描き、流しを小柄な体形にあわせて低く造るなど、芙美子のこだわりがあちらこちらにみられる栖です。

年に数回内部公開され、今回階段踊り場に展示されている写真はそのとき撮影したものです。

[参照]

◎『いま輝く林芙美子』　神奈川近代文学館　2011 年
◎『生誕 100 年記念　林芙美子展』　2003 年
◎『生誕 110 年　林芙美子展』　2013 年
◎『林芙美子記念館図録』　新宿歴史博物館　2003 年

林芙美子の書斎(林芙美子記念館内)

6 月　　＜高円寺図書館カレンダー＞

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	④ 休館日	5	6 お話会	7	8 わらべ歌の会	9
10	11	12	13 赤ちゃんタイム お話会	14	15	16
17 講演会	18	19	20 お話会	21 休館日	22	23
24	25	26	27 お話会	28	29	30 人形劇

○…休館日　　下線…午後5時閉館

【開館・貸出時間】　月曜 ～ 土曜 … 午前９時～午後８時

日曜 ・ 祝日 … 午前９時～午後５時

【休　館　日】　（祝日と重なったときは直後の平日が休館日となります。）

第１月曜日・・・高円寺は休館ですが、中央他区内６館は開館してます。

第３木曜日・・・全館休館日です。

7 月

日	月	火	水	木	金	土
1	②	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	⑲	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				